

1 オーバービュー： アトピー性皮膚炎の根治と合併症を考える ～複雑な局所の炎症をどう抑制するか～

Overview : Considering the cure and complication of atopic dermatitis

～ How to control local inflammation ～

山中恵一

YAMANAKA, Keiichi

三重大学大学院医学系研究科皮膚科学教授

Summary

アトピー性皮膚炎 (AD) は遺伝的素因に環境因子などが加わることで発症する多病因性の疾患である。Type 2 サイトカインの誘導されやすさというアトピー素因と、表皮角化細胞層におけるバリア機能の脆弱性を背景にして、痒痒が増悪因子となりさまざまな病因が複合的にかかわることで病態を形成している。近年の研究で鍵となるサイトカインは明らかになりつつあり、症状の遷延化の因子も解明されつつある。さらには炎症の持続によって生じ得る内臓の合併症も本項でまとめる。

Memory T細胞

抗原と遭遇することで産生され、同一抗原との再開にて速やかに応答できる能力をもつ。Central memory T細胞とeffector memory T細胞のほか、resident memory T細胞という、一旦組織に移行したのち、循環に戻ることなく組織に長く留まり続ける分画がある。上皮細胞のresident memory T細胞表面のマーカーとしてはCD103を発現する。

合併症

乾癬やアトピー性皮膚炎では心・脳血管イベントの合併率が高い。そのほか、皮膚炎などの炎症の遷延化にて動脈硬化症、内臓脂肪炎症、全身性アミロイドーシス、骨粗鬆症など種々の合併症が生じることが判明しつつある。

KEY WORDS

アトピー性皮膚炎／バリア機能／Type 2 サイトカイン／Memory T細胞／合併症